

宇宙開発の現状報告

(平成 24 年 2 月 29 日(水曜日) ~ 平成 24 年 3 月 6 日(火曜日))

平成 24 年 3 月 7 日
宇宙開発委員会事務局

る超伝導検出器を使うことで、既存の衛星観測センサより一桁以上高い観測精度を発揮したり、従来は測定困難とされていた分子種の精密な観測を実現した。

今回公開されるデータは、成層圏や下部中間圏における大気微量分子を精密に測定したものであり、オゾンホールに代表される成層圏オゾンの変動や地球温暖化など気候変動の解明に大きく貢献する。

宇宙開発に関する国内の動向

- 人類の持続的宇宙開発利用のための国際シンポジウムの開催結果について
3月1日(木曜日)及び2日(金曜日)、品川グランドホール(港区港南)において財団法人日本宇宙フォーラム主催により、人類の持続的宇宙開発利用のための国際シンポジウムが開催され、2日間で延べ約400名が参加した。
古川元久宇宙開発担当大臣の来賓挨拶の他、山川宏宇宙開発戦略本部事務局長、フランク・A・ローズ米国国務省次官補代理他の基調講演、一般講演、パネルディスカッションが行われた。
- 「きぼう」船外実験プラットフォーム利用ミッション超伝導サブミリ波リム放射サウンダによる観測データの一般向け公開開始について
3月5日(火曜日)、JAXAは、超伝導サブミリ波リム放射サウンダ(SMILES)による観測データの観測精度の高さが確認できたため、一般の利用者向けに観測データを公開したと発表した。
SMILESは大気微量分子の放出する微弱なサブミリ波を計測す

宇宙開発に関する海外の動向

- 国際宇宙ステーション(ISS)計画に関する宇宙機関長会議
3月1日(木曜日)(現地時間)、カナダ宇宙庁(CSA)、欧州宇宙機関(ESA)、JAXA、ロシア連邦宇宙局(FSA)、及び米国航空宇宙局(NASA)は、カナダで国際宇宙ステーション(ISS)計画に関する宇宙機関長会議(Heads of Agency; HOA)を開催した。